

■ 乗組員名簿

①士官	17名	④大工役	1名	⑦長崎出身水主	30名	凡例	年齢	太平洋横断時のかぞえ年齢
②医師	4名	⑤鍛冶役	1名	⑧その他出身水主	1名		◎印	長崎海軍伝習所出身者
③奉行従者	5名	⑥塩飽出身水主	35名	⑨米海軍士官／水兵	11名		●印	サンフランシスコにて病死
合計					105名			

※医師・奉行従者は、士官待遇／医師は、見習従者を含む

※解釈／見解の相違がありましたら、ご指摘ください。

士 官

番号	随伴艦内職名	氏 名	年齢	識別	生年月日／没年月日／戒名
					職名などの追記
1	軍艦奉行	木村摂津守喜毅	31	—	1830(天保元)年2月5日生 1901(明治34)年12月9日没
					軍艦奉行
2	船将	勝麟太郎義邦	38	◎	1823(文政6)年1月30日生 1899(明治32)年1月19日没
					軍艦操練所教授方頭取
3	砲術方運用方	佐々倉桐太郎義行	31	◎	1830(天保元)年生 1875(明治8)年12月17日没
					浦賀奉行配下与力、軍艦操練所教授方出役

4	運用方	鈴藤勇次郎敏孝	35	◎	1826(文政9)年生 1868(明治元)年8月19日没	普請役格、鉄砲方江川太郎左衛門配下手代軍艦操練所教授方出役
5		浜口興右衛門英幹	31	◎	1829(文政12)年11月15日生 1894(明治27)年10月15日没 戒名=賢徳院殿雄誉英幹大居士	浦賀奉行配下同心、軍艦操練所教授方出役
6		根津欽次郎勢吉 【運用方手伝】	21	◎	1839(天保10)年生 1877(明治10)年12月21日没	小普請組柴田能登守組、軍艦操練所教授方出役手伝
7	測量方	小野友五郎広胖	44	◎	1817(文化14)年10月23日生 1898(明治31)年10月29日没	牧野越中守家来、軍艦操練所教授方出役
8		伴鉄太郎	35	◎	1825(文政8)年生 1902(明治35)年8月7日没	箱館奉行支配調役並、軍艦操練所教授方出役
9		松岡磐吉	数え19	◎	1841(天保12)年生 1871(明治4)年7月5日没	葦山代官江川家元締手代松岡正平三男、同家鉄砲方普請役格、軍艦操練所教授方出役
10		赤松大三郎則良 【測量方手伝】	20	◎	1841(天保12)年11月1日生 1920(大正9)年9月23日没	御先手三浦美作守組与力吉沢勇之進次男、軍艦操練所教授方出役手伝
11	蒸気方	肥田浜五郎為良	31	◎	1830(天保元)年生 1889(明治22)年4月28日没	普請役格、鉄砲方江川太郎左衛門配下手代軍艦操練所教授方出役
12		山本金次郎	35	◎	1826(文政9)年生 1864(元治元)年7月没	浦賀奉行配下同心、軍艦操練所教授方出役
13		岡田井蔵 【蒸気方手伝】	24	◎	1837(天保8)年1月20日生 1904(明治37)年7月28日没	浦賀奉行配下与力 岡田増太郎第軍艦操練所教授方出役手伝
14		小杉雅之進 【蒸気方手伝】	18	◎	1843(天保14)年10月1日生 1909(明治42)年8月21日没 戒名=壽嶺院殿量遠日謙居士/大雄寺@谷中	御膳御酒役世話役長崎奉行支配調役 右藤第軍艦操練所教授方出役手伝
15	通弁方	中濱万次郎	34	—	1827(文政10)年生 1898(明治31)年11月12日没	普請役格、鉄砲方江川太郎左衛門配下手代付軍艦操練所教授方出役
16	公用方	吉岡勇平政成	32	—	1830(天保元)年2月26日生 1870(明治3)年11月18日没	軍艦操練所勤番
17		小永井五八郎岳 【公用方下役】	32	—	1829(文政12)年生 1889(明治22)年12月没	軍艦操練所勤番下役
18	医師	牧山修卿	27	—	1834(天保5)年生没年月日不明	松前伊豆守医師、御雇医師
19		田中秀安 【牧山医師見習】	不明	—	—	—
20		木村宋俊	不明	—	—	松平伯耆守医師、御雇医師手代
21		中村清太郎 【木村医師見習】	不明	—	—	—

22		大橋栄二	不明	—	—
			木村家用人		
23	奉行従者	福沢諭吉	27	—	1834(天保5)年1月10日生 1901(明治34)年2月3日没
			—		
24		長尾幸作	26	—	1834(天保5)年生 1885(明治18)年没
			—		
25	奉行従者 鼓手	斉藤留蔵	16	—	1844(弘化元)年2月10日生 1917(大正6)年1月8日没 戒名=大乗院法心日應居士
			下野壬生鳥居家来		
26		秀島藤之助	不明	◎	—
			肥前佐賀鍋島家家来		

船大工・鍛冶役

番号	職名	氏名		年齢	識別	太平洋横断後の消息ほか
		姓	名			
1	大工役	鈴木	長吉	42	◎	文政元年(1818年頃)生まれ/明治5年2月28日/1872年4月5日病没。 【091226追記】過去帳では明治5年4月17日/1872年5月23日病没。享年55歳
				伊豆河津浜村		
※2009年12月17日/河津町役場総務課からの情報提供で出身地・生年・没年月日を修正しました。						
2	鍛冶役	小林	菊太郎	不明	◎	江川太郎左衛門鍛冶組江戸
				江戸		

塩飽出身水主

番号	職名	氏名		年齢	識別	生年月日・没年月日など
		姓	名	出身		
				太平洋横断後の消息などの追記		
3	鉄砲方水主 小頭兼楯 取附方	豊島	兵吉	不明	◎	平吉と書かれる場合がある。
				本島笠島浦		
【100328修正】幕府海軍で千秋丸・幡籠丸で水主小頭を務めた。						
4		大熊	実次郎	24	—	天保8年11月20日生(1837年頃) / 1918(大正7)年2月18日没<享年82歳> 戒名=法光院義教良乗居士
				本島笠島浦		
【100328追記】神戸操練所開設に関わり、閉鎖後に紀州藩で帆走術を教えた。1868年1月1日の神戸港開港時、英国領事館になった神戸操練所ドックの責任者を務める。その後、神戸で船具商と造船業(航洋船)を営む。明治17年、二等運転士仮免許を受ける。全国で7番目、その後我国初の甲種船長となる。						
5		森	勤次郎	21	—	天保11年8月18日生(1840年頃) 1902(明治35)年11月24日没
				榎石島		
【050912追記】勤二郎、勤三郎と書かれる場合がある。大阪商船就航100周年調査で山陽新聞より初代船長で明治33年まで海上生活されたことが判明。						
6		高橋	金左衛門	不明	—	1869(明治2)年1月15日没 / 戒名=教兼彼岸信士金右衛門と書かれる場合がある。
				牛島里浦		
【100328追記】小笠原へ、千秋丸の乗組員で参加。函館戦争で軍艦にて没						
7		東	国蔵	不明	—	1881(明治14)年9月1日没 国造と書かれる場合がある。
				広島江之浦		
【100328追記】咸臨丸小笠原航海に参加。維新後、琵琶湖で水夫をする。琵琶湖初の蒸気船船長になる。						
8		横井	松太郎	18	—	天保14年2月28日生(1843年頃) 1901(明治34)年1月25日没 戒名=直至院真善道応居士
				本島泊浦		
病気のためサンフランシスコに滞留。万延元年8月帰国。						
9	鉄砲方水主	平尾	宮三郎	18	—	—
				本島宮之濱		
【061010追記】太平洋横断時の年齢判明 / 子孫からの情報提供 【100328追記】塩飽水主の最年少者。咸臨丸小笠原航海に参加。戊辰戦争で東都にて没。						
10		郡家	瀧蔵	21	◎	天保11年9月19日生(1840年頃) / 1902(明治35)年9月1日没<享年63歳> 戒名=普証導専信士 / 滝造と書かれる場合がある。
				牛島		
—						
11		松井	弥十郎	不明	—	1884(明治17)年12月19日没 弥重郎と書かれる場合がある。
				広島江之浦		
【100328追記】桑港への、勝の買い出しに同行した話が残る。咸臨丸小笠原航海に参加。						
12		-	和三郎	不明	—	—
				広島茂浦		

13	島本	善四郎	23	◎	天保9年生(1838年頃) 万延元年7月25日<1860年9月10日>没善次郎と書かれる場合がある。	
			瀬居島		【100328追記】帰国後、鵬翔丸の乗り組みとなる。 万延元年7月25日、伊豆下田大浦沖で座礁沈没で遭難死	
14	石川	政太郎	26	—	天保4年12月23日(1833年頃)生/ 1907(明治40)年11月13日熊本で没<享年75歳>	
			本島泊浦		【100328追記】咸臨丸航海日誌を残す。榎本艦隊に参加し、後に横須賀造船所の工長になる。 【130120追記】先祖の記録参照	
15	帆仕立方役	生田	治作	22	◎	平吉と書かれる場合がある。
				榎石島		病気のためサンフランシスコに滞留。万延元年8月帰国。
16	水主小頭	曾根	仁作	不明	◎	1868(明治元)年9月18日没 量平と書かれる場合がある。
				広島立石浦		【100328追記】文久3年に水主同心格に取り立てられて武士になる。後に富士丸の水主小頭として、功績を上げた。榎本艦隊に咸臨丸水主小頭で参加。房総半島沖で漂流し、下田経由で清水に寄港するが、清水にて官軍の銃撃を受けて死亡。
17	-	音吉	不明	—	乙吉と書かれる場合がある。	
			榎石島			
18	小栗	善三郎	52	—	1880(明治13)年11月13日没<享年72歳> 林之介または林蔵と書かれる場合がある。	
			本島笠島浦		【100328追記】咸臨丸乗組員最年長者。小笠原航海迄咸臨丸に乗っていたが、江戸の到着後に岩村吉之助を伴って函館丸で函館に向い、函館にて千石船に乗る。	
19	玉谷	好平	40	—	1872(明治5)年没。<享年52歳>	
			高見島		病気のためサンフランシスコに滞留。万延元年8月帰国。 【100328追記】幕府軍艦の水主小頭で働く。 【130120追記】先祖の記録参照	
20	石川	大助	不明	—	1877(明治10)年没石川政太郎の弟	
			本島泊浦		【100328追記】咸臨丸小笠原航海に参加。	
21	平田	源次郎	33	—	文政11年4月10日生(1828年頃) 1893(明治26)年1月27日没	
			広島茂浦		【100328追記】榎本艦隊に参加。函館戦争後、函館にて蒸気船の船長を務める。 1893(明治26)年1月27日没	
22	岡田	源之助	25	●	安政7年3月3日/1860年3月23日病没<享年25歳>	
			広島青木浦		サンフランシスコにて病死。ローレルヒルの墓地に埋葬。	
23	山下	伊三郎	不明	◎	1887(明治20)年間4月3日没	
			広島青木浦		【100401修正】咸臨丸小笠原航海に参加。維新迄、幕船に乗務した。	

24	宮本	角之丞	31	◎	天保元年4月10日(1830年頃)生/ 1878(明治11)年4月8日東京品川にて没<享年49歳> 戒名=本阿角道信士/角太郎、角治と書かれる場合がある。
			瀬居島		【100328追記】咸臨丸小笠原航海に参加。大熊実次郎が没後の位牌を東京から本島の宮本英太郎に届ける。
25	岩村	吉之助	不明	—	吉之介と書かれる場合がある。
			本島新在家		【100328追記】咸臨丸小笠原航海に参加。後に函館で大倉近兵衛と名乗って、笠島小栗家の千石船に乗っていた模様。
26	-	幸吉	39	◎	万延元年7月25日<1860年9月10日>没
			広島福田浦		【100328追記】帰国後、鵬翔丸の乗り組みとなる。万延元年7月25日、伊豆下田大浦沖で座礁沈没で遭難死。苗字が「伴」と思われる。
27	大倉	幸三郎	19	—	天保11年8月5日(1840年)生 1874(明治7)年4月24日付で北海道開拓使御用掛 1910(明治43)年8月29日没<享年70歳>戒名=陸岸浄興信士
			本島大浦		【100328追記】咸臨丸小笠原航海に参加。その後、不明 【110614追記】子孫から教えていただいた没年月日と享年を追記 【120820追記】開拓使御用掛は、北海道開拓使記録に基づく/子孫調査 【121128追記】先祖の記録参照
28	向井	仁助	不明	◎	明治27年没 仁介と書かれる場合がある。
			広島市井浦		【100332修正】幕府海軍で千秋丸・幡龍丸で水主小頭を務めた。
29	水主 松尾	延次郎	40	◎	文政4年12月28日(1821年頃)生/ 1894(明治27)年2月29日没<享年74歳>戒名=浄誉法山信士
			瀬居島		病氣のためサンフランシスコに滞留。万延元年8月帰国信次郎と書かれる場合がある。 【100328追記】明治になっても長く水夫として務める。桑港での写真あり
30	田中	清右衛門	不明	—	—
			高見島		【110621修正】二女が中西竹蔵妻となる。
31	高島	清蔵	45	◎	文化13年4月27日(1816年頃)生/ 1896(明治29)年3月28日没<享年81歳>戒名=高島院清莊正富居士/ 清造と書かれる場合がある。
			本島笠島浦		墓碑は笠島薬師堂の前にある。 【100328追記】咸臨丸のスケッチが載った新聞を持帰ったが、その後の調査の過程で紛失された。咸臨丸小笠原航海に参加。
32	中西	竹蔵	不明	—	—
			高見島		【110621修正】子孫入会により、中西竹蔵妻が、田中清右衛門二女と判明。
33	-	友吉	不明	—	—
			広島茂浦		
34	平田	富蔵	不明	●	安政7年3月10日/ 1860年3月30日サンフランシスコにて病死
			佐柳島		ローレルヒルの墓地に埋葬。富造と書かれる場合がある。
35	森	寅吉	不明	—	万延元年7月25日<1860年9月10日>没虎吉と書かれる場合がある。
			広島茂浦		【100328追記】帰国後、鵬翔丸の乗り組みとなる。 万延元年7月25日、伊豆下田大浦沖で座礁沈没で遭難死

36	前田	常三郎	26	◎	天保6年(1835年頃)生れ 1891(明治24)年1月27日没
			佐柳島		
【100328追記】咸臨丸小笠原航海に参加後、神戸操練所で働く。閉鎖時に坂本龍馬に従って行動する。亀山社中、海援隊で佐柳高次を名乗る。					
37	-	吉松	46	◎	-
			高見島		
病人8名と共にサンフランシスコに滞留。万延元年8月帰国。 【100329追記】帰国後、水主小頭に昇格。					

長崎出身水主

番号	職名	氏名		年齢	識別	備考
		姓	名			
38		-	長次郎	不明	-	-
				戸町		
39		-	大次郎	不明	-	太次郎と書かれる場合がある。
				小瀬戸		
40		-	栄吉	不明	-	病気のためサンフランシスコに滞留。万延元年8月帰国。
				西泊		
41		-	福次郎	不明	◎	福太郎と書かれる場合がある。
				野茂		
42		中村	伊助	不明	◎	-
				鮑之浦		
43		-	嘉右衛門	不明	-	-
				榑島町		
44		-	久平	不明	-	九平と書かれる場合がある。
				小瀬戸		
45	長崎水主	-	久太夫	不明	-	病気のためサンフランシスコに滞留。 万延元年8月帰国。久太郎と書かれる場合がある。
				瀬戸脇		
46		-	百太郎	不明	-	-
				西泊		
47		松本	信吉	不明	◎	新吉と書かれる場合がある。
				水之浦		
48		-	庄大夫	不明	-	庄太郎と書かれる場合がある。
				西泊		
49		-	惣八	不明	-	病人8名と共にサンフランシスコに滞留。 万延元年8月帰国。宗八、源八と書かれる場合がある。
				鮑之浦		
50		-	助次郎	不明	-	-
				大浦		
51		河野	辰蔵	不明	-	1840(天保11)年生/1893(明治26)年2月22日没勝蔵、勝造と書かれる場合がある。
				西泊		



52		-	梅吉	不明	—	—
				小瀬戸		
53	火焚役小頭	内田	嘉八	不明	◎	—
54		-	小三郎	不明	◎	—
55		-	九平	不明	◎	久平と書かれる場合がある。
56	火焚	-	弁之助	39	—	1822(文政5)年生、1865(慶応4)年没
57		-	伊三郎	不明	—	—
58		-	又次郎	不明	—	—
59		-	峰吉	不明	◎●	安政7年間4月1日/1860年5月20日サンフランシスコにて病死。ローレルヒルの墓地に埋葬。峯吉と書かれる場合がある。
60		-	紋次郎	不明	—	紋太郎と書かれる場合がある。
61		-	竹治郎	不明	—	竹次郎、吉之助と書かれる場合がある。
62		-	滝蔵	21	—	病気のためサンフランシスコに滞留。万延元年8月帰国。瀧吉と書かれる場合がある。
63		-	藤助	不明	—	藤介と書かれる場合がある。
64		-	弥蔵	不明	—	—
65		-	善蔵	不明	—	—
66	-	吉之介	不明	—	—	
67	-	三四郎	不明	—	—	

その他出身水主

番号	職名	氏名		年齢	識別	備考
		姓	名			
68	霞ヶ浦水主	遠藤	国太郎	不明	—	—
				小美玉市霞ヶ浦		

## 乗船米海軍士官／水兵

番号	職名	氏名
1	海軍大尉、指揮官	John M. Brooke／ジョン・M・ブルック ▼
2	事務長	Charles Rogier／チャールス・ロジャー
3	砲手	Charles Falk／チャールス・フォルク
4	外科医	Lucian P. Kendall／ルシアン・P・ケンダル
5	舵手	Alexander Morrison／アレクサンダー・モリソン
6	掌帆手	Charles Smith／チャールス・スミス
7	帆縫工	Frank Cole／フランク・コール
8	水兵	George Smith／ジョージ・スミス
9		Axel Smedborg／アクセル・スメドボルグ
10	コック	James Burke／ジェームス・バーク
11	海図専門家	Edward M. Kern／エドワード・M・カーン／士官待遇